

# 山大社会学同窓会報 第46号

2024 (令和6) 年5月10日発行

## 文章を書くことそのものの意味

社会学コース 准教授 桑畑 洋一郎

2017年10月に社会心理学分野に着任した桑畑です。この同窓会報に執筆させていただくのは2回目かと思います。改めましてよろしくお願いいたします。

本稿の執筆についてお声掛けいただいてから、どういったことを書こうかしばらく悩んでおりました。何かの題材が得られないかなと思い、学部生時代の2000年から保存している文書ファイルを漁ってみました。結局、保存された文書ファイルの中身そのものに題材になりそうなものは特に見当たらなかったのですが、“どこにも公開しないしするつもりもなかったそれなりの文章”を、学生時代に結構書いていたこと（またそのことをすっかり忘れていたこと）に気づきました。そこで、これらのファイルを眺めていた感じた、文章を書くことそのものの意味、ということの本稿の題材にしてみたいと思います。

保存されていた文書ファイルから発掘されたものとしましては、例えば、公園でスケートボードをしていたら管理者に注意された自分の経験をベースに管理社会化を論じてみた文章だとか、同性愛者の在日コリアンが自分と家族を素材に撮影したドキュメンタリー映画を元に、マイノリティ性の重層性（今だと「インターセクショナルリティ」と言うと思いますが）を論じた文章だとかがありました。これらの文章は、とりわけ学部生時代から大学院の博士課程を修了する2008年までの期間に集中しています。毎年5～6本、それぞれ5,000字前後書いていました。書いた意図は自分でも思い出せませんし、どこかで公表した記憶もないのですが、とにかく何か書きたかったということなのでしょう。ただ、こうした一連の文章が、結局全く何の意味もなかったかと言うと、そうでもないのかなと感じたりもします。もちろん、この場で題材として再利用しているので、その点で意味はあったとは言えそうですが、それとはまた別のこととして、です。

例えば、上で例として挙げた2つの文章には、内容そのものというよりその基盤にある発想という点で、現在の研究上の関心や発想と共通するところが多く存在しています。過去の行為に意味を置きすぎかもしれませんが、学生時代に何となく持っていた関心を、公表予定もなく文章化してきたことで、今の研究につながっていったのかもと考えています。

何かしらの目的が存在しなくても、とにかくそれを文章にしておくことは、雑然とした経験や思考をそれなりの形とし、まとめ上げていくことにもつながりますし、それを将来において確認可能な形で残しておくことにもつながります。私のような若輩者がこんなことを言うのも僭越なのですが、今回文書ファイルを漁ったことで、文章を書くということは、人が生きる上で結構重要な意味をもたらしてくれるんだろうな、と改めて感じた次第です。

## 山大社会学同窓会東京支部へのお誘い

2001 (平成13) 年卒 阪本 良太

山大人文学部社会学同窓会東京支部幹事の阪本良太と申します。在学中は、小谷典子先生のゼミに所属しておりました。

去る2月17日（土）に、東日本在住の社会学コース（旧・社会情報論コースや社会学小講座時代も含む）卒業生を中心に、小谷先生・坪郷英彦先生・横田尚俊先生をお招きして、東京支部同窓会総会・懇親会を、新宿区四谷の主婦会館プラザエフにて催行いたしました。数年ぶりの開催となり、新型コロナ禍の国民総自粛生活明けという解放感もあってか、20代から80代までの約20名にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。私も含めた（20代からアラフィフまでの）「若手」有志は、その後四谷駅周辺で2次会、3次会と盛り上がり、夜更けまで楽しいひとときを過ごしました。

近年は参加された先生方の最近の研究内容などを講話していただき、東京支部の活動をご報告した後（年次総会も兼ねております）、酒食と懇談の時間に移るといった流れで進行しておりましたが、今回は堅苦しいことは抜きにして、飲食しながら順番に、参加者の近況について紹介していただきました。

特に昨年は、東京支部代表の原早苗先輩（1973年専攻科卒）が長年消費者問題に取り組まれた功績により、総理大臣表彰（消費者支援功労者表彰）を受けられたほか、元衆議院調査局長の山本直和先輩（1977年卒）が秋の叙勲で瑞宝章重光章を授与されるなど栄典続きだったことは、人文学部同窓会報『鴻文』第43号に報じられた通りです。

近況報告の中で、山口大学ならびに人文学部人文学科社会学コース、そして同窓会を取り巻く状況について、横田先生からご報告いただきました。

新年度より、速水聖子先生が人文学部の学部長に就任されるとうかがい、参加者一同色めき立ちました。社会学コースから学部長が選出されるというのは大変名誉なことですし、特に年若い卒業生たちは、実際にお世話になった先生ですから感慨も一入なのではないかと思えます。

また、横田先生ご自身が2024年度いっぱい定年退職されるとのこと。最終講義については、「いいよ、俺はそんなのやらないよ〜」と仰っていましたが、その場で小谷先生より来年3月に開催されると予告がありましたので、先生にお世話になった卒業生は、日程が明らかになった暁には、万難を排して会場に駆けつけましょう。

さて、当会は山大人文学部社会学同窓会東京支部と名乗っておりますが、本来は社会学同窓会の支部であり、人文学部同窓会「鴻文会」と直接の本支関係はありません。他学部の同窓会は地方支部の窓口があつたりしますが、鴻文会には地方組織がなく、当会が事実上、関西以東の東日本の鴻文会窓口ともなっております。昨今はこの同窓会も安定的な存続を目指しており、学部を横断した東日本での連携協力の可能性を検討したり、イベントに相互参加したりしています。

東京支部では現在、東日本に在住する100名程度の社会学卒業生の動向を確認しておりますが、総じて若い世代は転入・転出が多く、案内が転居先不明で返送されてくることがあります。社会学同窓会だけでは移転先を把握できず、最近では鴻文会本部へ情報提供をお願いする頻度が高くなっております。転居される際は鴻文会のもとより、社会学同窓会にもご一報くださいますようお願いいたします。

冒頭で触れたとおり、東京支部では例年明けに総会・懇親会を開催しております。近年は先生方にも快くご了承いただき、遠路足をお運びいただいています。先生方やゲストの講話で学生時代の向学心と呼び起こすもよし、在学時の懐かしい話をして旧交を温めるもよし、様々な分野で活躍している卒業生各位の話聞くもよし、東京支部のイベントに関心がおありの皆様は、社会学同窓会事務局へお気軽にご連絡ください。東京支部より総会・懇親会開催のご案内をいたします。常連の皆様のみならず、まだ見ぬ卒業生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 出会いに恵まれた大学生生活

2024（令和6）年卒 久保 みのり

この度、私たちは晴れて卒業を迎えることができました。コロナ禍という、これまでにない不安がある中で始まった大学生生活でしたが、先生方をはじめ、人文学部の教職員の方々が支援をしてくださったおかげで、充実した大学生生活を送ることができました。心より感謝いたします。

無事に卒業を迎えた今、山口大学での大学生生活を振り返ると、出会いに恵まれた4年間だったと思っています。

特に、市民活動に関わる方達と、現代社会学の講読や調査実習、演習の授業を通して出会えたことが、私にとって貴重な経験となりました。

「市民活動」とは、地域課題や社会課題の解決を目的に市民が主体的に行う活動で、具体的には、ひとり親支援の活動や、スマホ教室の開催による市民同士の交流の場の提供などがあります。講読と演習の授業では実例を通して、活動が市民の生きがいを担っていることと、活動の運営資金や担い手の確保において課題があることを学びました。調査実習では、市民活動を担っている方や、活動団体の支援者から直接話を聞くことができました。そこでは、市民活動の内容や意義、活動の支援方法をはじめ、支援の質を上げるために、活動の担い手の方々が自己研鑽をしていることを知ることができました。具体的には、同じ課題の解決に取り組む他地域の団体の調査や、行政、企業、学校との連携を図るなど、専門性の向上に努めていました。

こうした授業をきっかけに私は、活動の現場を見て、より当事者のことを知りたいと思うようになり、ボランティアとして市民活動に参加するようになりました。そこでは、地域課題、社会課題の解決に対する活動の担い手の方々の強い思いや、活動が実際に市民の生活を支えているということ、より強く実感することができました。

授業やボランティア活動の中で、市民活動に関わる方々と交流した経験を踏まえて、私は、地域課題の解決に取り組み、快適な生活を市民に提供したいと考えるようになりました。さらに、市民がやりたいことをやれるような環境を作り、整えていきたいとも思い、それが自身の進路選択に繋がりました。

私は山口大学での4年間を通して、大学内外で多くの新しいことを経験し、自身の知見や価値観を

広げることができました。今後も様々なことに関心を持ち、大学で得た自ら学ぶ姿勢を大切にして、新天地でも精進してまいります。

最後になりましたが、この4年間で大変お世話になりました、人文学部の職員の皆様、先生方、そして一緒に学んできた友人に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## ☆山口大学社会学同窓会総会のご案内

コロナ禍で中止となっておりました社会学同窓会総会を、5年ぶりに下記の要領で開催いたします。新入会員の激減、財政逼迫の下で、今後の同窓会組織・運営のあり方等について検討する予定にしておりますので、ぜひ総会にご参集いただき、ご意見をお聴かせください。

なお、今回は人文学部の小講義室を総会会場とし、全体での懇親会開催を予定しておりますので、事前の出欠確認をいたしません。直接、会場へお越しください。

○開催日時：2024年6月1日（土） 15:00～

○会場：山口大学人文学部小講義室

山口大学吉田キャンパスの地図は、山口大学ホームページの大学紹介→キャンパスマップの順でクリックしてご覧ください。

なお、総会当日は、山口市の一の坂川ホテル観賞 Week！（6月1～7日）初日となります。

## ☆社会学同窓会・社会学研究室からのお知らせとお願い

2023年度は、社会学コースで学んだ36名と大学院人文科学研究科現代社会研究コースに在籍した4名が学び舎を後にしていきました。改めて、卒業生・修了生の皆様のご健勝を祈念いたします。

社会学コースの速水聖子教授が、2024年4月より人文学部長に就任されました。社会学同窓会員の皆様には、大学・学部へのよりいっそうのご支援をよろしくお願ひします。